

新潟県長岡市における持続可能な 防災教育体制の構築

～「御用聞き」がつなぐ、学校・地域・家庭の防災教育～

新潟県長岡市 NPO法人ふるさと未来創造堂
常務理事 中野 雅嗣



1 はじめに

私たちは、わくわくする「防災共育」をきっかけに、地域一体での教育・共育社会の創造を目指すNPO法人です。学校・地域・家庭共通の課題である防災・減災は、連携の必要性を実感できる題材でもあります。皆で学び合う防災共育の推進を核に、レジリエントな人づくり・まちづくりの実現に取り組んでいます。

2 事業背景

新潟県は2015年2月に小・中学校等に新潟県防災教育プログラムを配布しました。一方、学校現場は、多忙化解消が喫緊の課題であり、プログラムが現場に負担を与えた挙句、効果をもたらさないことも危惧されました。長岡市では市民協働の枠組みから生まれた提案が市の政策として事業化され、当法人はその事業を受託し、学校の負担を軽減しつつ、地域と連携した持続可能な防災教育の推進と支援体制の構築を目指して現在6年目に

なります。

3 事業内容

長岡市では大きく以下の4点に取り組んでいます。

- ①行政の防災部局と教育部局とが連携し、全小・中学校（82校）に毎年更新する教材「長岡市防災玉手箱」を設置
- ②学校防災教育に関する総合相談窓口の設置
- ③「御用聞き」による毎年の資料の差し替えを兼ねた学校訪問とヒアリング、防災学習支援
- ④「御用聞き」及び防災共育サポーター（防災学習支援者）の育成と活用

活動の一番のポイントは、中学校区に配置している「御用聞き」の存在です。「御用聞き」とは、学校所在地域に詳しい方や防災士等が一定の研修を受けた後、毎年各校に設置されている教材のメンテナンスに担当校を訪問する支援者です。差し替え教材は郵送等も可能ですが、あえて「御用聞き」が学校を直接訪問し、差し替えを行います。全校の教材を最新の状態に保てる他、学校の管理職や防災教育担当者と顔を合わせる機会にもなり、教材の活用方法や地域の災害リスクの紹介、防災教育に関する困りごとのヒアリング、新任の担当者には長岡市の教材や支援体制の仕組みについても伝えることが可能になりました。もちろん困りごと等が無い場合もあります。その際には教材の差し替え後、支援が必要な時の連絡先を伝えます。

富山の薬売りをモデルにした「御用聞き」は、決して押し売りはしないこと。毎年の

長岡市防災玉手箱「御用聞き」のモデルは？

富山の薬売り

富山の家庭薬行商人。また、その行商。
全国各地の得意先に薬を置き、年に一、二度訪問して使用分の代金を清算し薬を補充する。

→置き薬で、使えるものを使ってもらおう。
→使われた薬は補充、使われない薬は入れ替え。

使わなければ、損はしない。（お代がかからない。）
必要な時に、すぐに使える。（薬箱がお守りに。）
営業が一切ない。（不要なものを買わされない。）

NPO法人
ふるさと未来創造堂

学校訪問が仕組みとして継続できるよう、相手からの要望がなければ、アポイント時の約束の時間内（15分程度）で訪問を終えること。研修で地域における「学校（防災）の理解者」としての姿勢を学び、学校負担を軽減する視点から、この2点の徹底は訪問前研修でも毎年伝えていきます。

訪問後の各校からの個別相談や学習のサポートは当法人が主体となり、講座等の実施時には担当校区の御用聞きやサポーター、地域住民等を可能な限り巻き込み、皆で学校防災教育を支える活動にコーディネートしていきます。また、訪問時に御用聞きが知り得た情報やその後のサポート履歴は学校ごとのカルテとして整理・蓄積し、その情報を御用聞きとも共有することで、担当者等の転出時にも取組の継続性も支えています。

4 事業効果

試行錯誤しながら積み重ねた6年間。支援体制の活用により、各校の地域と連携した実践的な防災教育の取組は右肩上がりが増加した他、様々な効果が見えてきました。

- ・「御用聞き」の学校訪問から窓口相談につながっている。
- ・中学校区全体で小・中学校が休日を授業日にし、地域と合同での防災訓練を実施する学校が増えた。
- ・地域と連携した活動を通じて、地域に貢献したいと願う子どもが増加した。
- ・令和元年東日本台風接近時に、「御用聞き」による学校訪問時の助言（地域特性）が大変役立ったという声が届いた。
- ・活動を通じて「御用聞き」の考え方や行動も変容している。防災士資格を保有する「御

H29～R3年度 長岡市小中学校サポート件数 対象：82校

	2017	2018	2019	2020	2021
個別相談・打ち合わせ	27回	47回	92回	71回	101回
講座実施 (講師派遣含む)	35回	69回	51回	58回	59回
その他(教材・資料 の提供・貸出等)	7回	30回	50回	86回	82回
合計	24校 69回	47校 146回	40校 193回	27校 215回	40校 242回

- ・防災に関しては、正直わからない。気軽に相談できて、学校にも来てくれる。ちょっとした悩みから計画づくりまで、一緒にできるのがよい。
- ・もやもやしていた総合の見直しや、具体的な施設活用法が分かった。
- ・資料提供のおかげで、無理なく、子どもも教師も、皆が自分事として実感できる学習ができた。
- ・最近では校内のみならず、家庭・地域にも少しずつ変化がみられる。
- ・来年こそは地域と中学校区全体で合同防災訓練をやりたい。等

ふるさと未来創造堂

用聞き」は「防災訓練・教育にもっと取り組むべき」という考えから「まずは先生と相談だ」と、防災にも詳しい「学校の理解者」へと考え方が変化した。また、「学校の理解者」として関わる保護者世代の「御用聞き」は、訪問を継続していく中で防災・減災を学ぶ必要性を実感し、自らの意思で防災士資格を取得した。

学校防災教育を皆で支える支援体制の構築が、連携の必要性を再認識させ、安心・安全なまちづくりのために大人も子どもも自分に何ができるかを考え、行動しようとする地域一体での防災意識の向上にもつながっています。

5 おわりに

当法人がコーディネートした学校と人や団体の直接的なつながりも生まれ始めています。学校防災教育を皆で支える活動で、学校と地域が繋がっていき、希薄化していたつながりを取り戻しています。新潟県長岡市での事例が、他市・他県における、地域一体での共育を核とした防災まちづくり、人づくり、仕組みづくりに、少しでも参考になれば大変幸いです。